

【E-Rモデルから関係モデルの作成（第3正規形：後編）】

第3正規形：後編

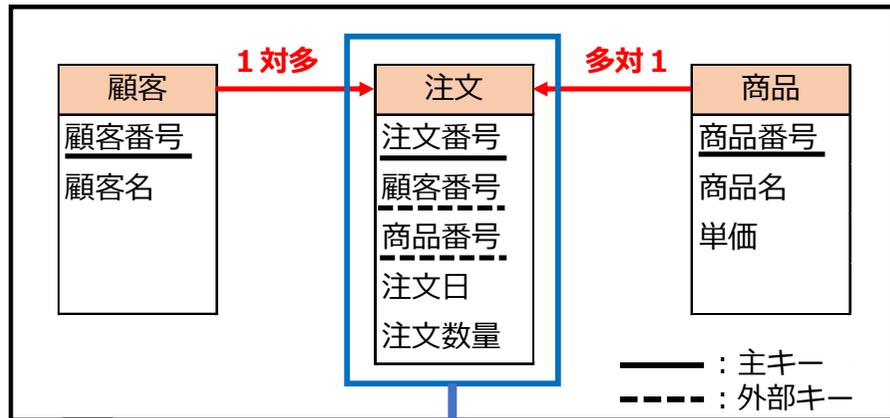
※図は全て次ページを見てください。

先の投稿（E-Rモデルから関係モデルの作成（E-R図の構築から非正規形まで））と同じものである図（RDBの資となるE-R図）から前回の投稿と同じものである図（第3正規形）が導き出すことができました。しかし、図（第3正規形）をE-R図にした図（RDBから作成したE-R図）は、図（RDBの資となるE-R図）と同一になっていません。

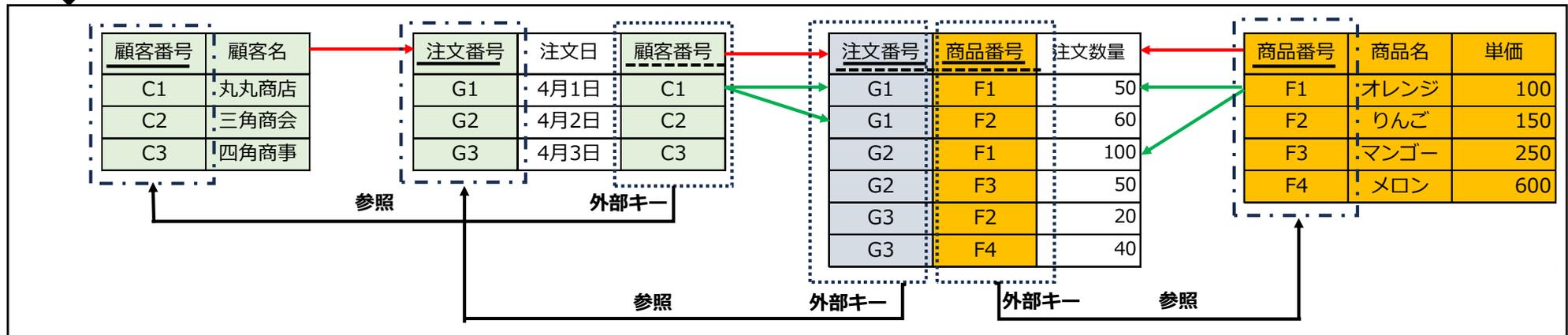
その原因としては、図（RDBの資となるE-R図）の注文エンティティには、**推移的関数従属として、候補キー {注文番号} →非属性キー {顧客番号} →非属性キー {注文日}** があり、第3正規形ではありませんが、図（RDBから作成したE-R図）は、注文エンティティが注文ヘッダエンティティと注文明細エンティティに分解されており、第3正規形になっているためです。つまり、図（RDBから作成したE-R図）が正しいE-R図となります。

ここで、上記の**赤太字部分**の推移的関数従属の推移項目がわかりづらいと思いますが、注文伝票の明細部分ではないヘッダ部分に相当すると考えればわかりやすいと思います。

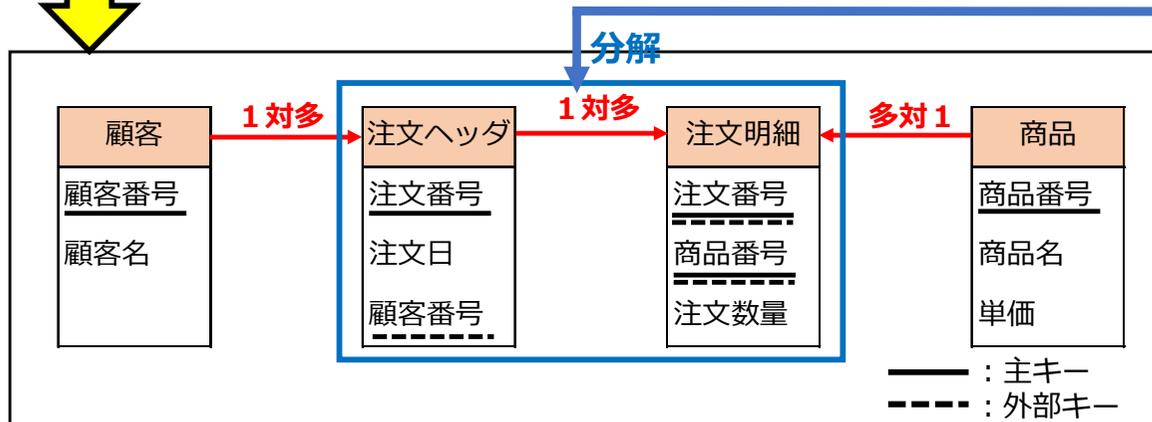
以上で第3正規形まで完了したので、ここで終了としたいのですが、次回からは、ボイス・コード正規形、そして第4正規形、更に第5正規形へと進んでいきます。



図：RDBの資となるE-R図



図：第3正規形



図：RDBから作成したE-R図

本資料は正確性に欠く部分及び誤字脱字等も多い
 と思います。そのため、本資料に起因した損害等
 については、管理人として責任を負いかねますの
 で御了承ください。
 © 2025 spine-team.com